

キリギリス幼虫放す 大堤公園で有志が300匹



キリギリスの幼虫を草むらに放す子供たち

塩尻市内でキリギリスの保護に取り組んでいる「塩尻キリギリスの会」(新村幸雄会長)は6日、宗賀の大堤公園に、キリギリスの幼虫約300匹を放した。市のレッドデータブックに載っているキリギリスの復活を願い、子どもの小指ほどの小さな幼虫を、地域の親子を含め約30人で草むらに逃がした。

会員が育てたキリギリスが産卵し、5月にふ化した幼虫を放した。子供たちが、プラスチックの箱に入れた幼虫をそっと手に乗せて草むらに逃がすと、周辺のあちこちで小さなキリギリスが跳びはねていた。順調に成長すれば、8-9月に鳴き声が聞けるという。

同会は平成5年に発足し、これまでに小坂田公園など市内6カ所で自然繁殖に取り組んでいる。新村会長は「生息域が広がっている。入会希望者もいるので、会員を増やして頑張っていきたい」と張り切っていた。

(長尾浩道)

〈13〉 2010年6月12日(土) タウン情報

キリギリス放す 塩尻の有志



ふ化したばかりのキリギリスの幼虫を放す参加者

塩尻市内の有志でつくる「塩尻キリギリスの会」(新村幸雄会長)は6日、同市宗賀床尾にある大堤公園で93年から市内各地で取り組んでいる活動の

一環だ。この日は、地域の児童や園児らも含め約30人が参加。新村会長(77)は「生息環境の悪化でキリギリスが見られなくなりつつある。夏になると、キリギリスの鳴き声が響くよう、元気に育ててほしい」とあいさつした。

この後、新村会長ら会員が自宅でふ化させた体長数センチの幼虫を、子どもたちが手のひらに乗せて、次々と放した。古畑帆高君(5、床尾)は「ギーチョンと鳴くのが楽しみ。早く大きくなれ」と話していた。

床尾区の葛西留夫区長(67)は「昆虫が生息できる環境は、人間にとっても安心して暮らせる環境だ。子どもたちにも命の大切さを知ってほしい」と話していた。

塩尻・木曾